

北見赤十字病院 がんサロン ほほえみ

# ほほえみ通信 Vol 188

第188回 ほほえみ 開催

2025/9/25

発行

9月17日(水)第188回 ほほえみを開催しました。今回は6名の方に参加して頂きました。参加に際しましては、感染予防対策のためマスクの着用と手指消毒のお願いをさせていただいておりますので、ご協力をお願い致します。

次回のほほえみは、10/15(水)14時から16時まで  
本館3階 特別会議室での開催となりますのでご参加下さい。  
【がんサロン事務局より】

「癒されるって。。。」

(がん体験記)

ほほえみの皆さん、こんにちは、関西は、極暑が続いてますが、北海道はいかがですか？医療は、日進月歩です。しかしながら、通院や入院など、社会資源を活用するなど患者さんも家族も大変だと思います。

未だに、40年前の父が胃がんと立ち向かっている姿や看護学生である私の頃の姿を思い出す日々があります。

父が胃がんになり、それも末期で、あと半年しか生きられないと母から聞いたとき、高校生だった私は、親が癌になった時の教育が必要だと思われました。

妹が高校入学を控え、私は医療の道へとスタート店に立った時に、母からの言葉は心ないものにしか見えませんでした。

母にすれば、誰かに自分の夫が末期癌を告知されたことを話したかったのだと思います。

1番辛かったのは、父が闘病生活を終え、数ヶ月後に父が入退院を繰り返した病院に保健所実習に行く前、病院に入る時、父がお世話になった、ドクターや看護師さんに、「学生さんとして頑張っているのね。」「お父さんも、天国で見守ってるよ」という言葉が、父の闘病生活を思い出してしまっただけで作り笑いをする私の存在に気づいたことです。

また、父の妹は、経験豊富な看護師でしたが、乳がんになり、様々な治療をしましたが、天国に召されました。

私は、毎年、保険適用でマンモグラフィーとエコーを受けています。一度、乳がん検診で再検査となり、生検検査をする事になったからです。この時、初めてがん患者の不安が理解できた気がします。

私が願うのは、がんサロンは様々なところがありますが、その場所まで来ることが出来ない人がいる事や仕事や家庭の事情で参加出来ない人がいる事を視野に入れて欲しいと強く願います。

Zoomなどを使ってのがんサロンが増える事で喜怒哀楽を共にする居場所が、今後は必要になるかと思っています。

写真は、秋だというのに庭に咲いている向日葵を選びました。花言葉は、私はみなさんを忘れない、希望です。

私も、いつの日かほほえみに出向きたいと思っています。(和歌山県/女性/胃がん/がん患者家族)